



この新聞はHP (<http://www.npo-asia.org>) でも読めます。 上のQRコードを読み取ってください
〒154-0016 東京都世田谷区弦巻 2-18-22-414 E-mail: new-wind2006@npo-asia.org

新年のご挨拶

理事長 加納 啓良

2022年、新年明けましておめでとうございます。昨年は、全世界が残念ながらコロナ禍からの脱出を果たせずに終わりました。アジアの交流のある国々について概観すると、中国ではゼロ・コロナの厳しい対策が続く一方、日本、タイ、ベトナム、インドネシアでは毎日の新規感染者数の推移に悲喜こもごもの増減がありました。昨年1月の1日平均新規感染者数を統計から計算すると、インドネシアが1万人以上で最多、次いで日本が約5千人、タイが400人以下、ベトナムはわずか11人と大差がありました。7月にはインドネシアが4万人弱と最悪の状態に陥り、次いでタイが1万人以上、ベトナムが4,200人余り、日本が4千人前後と順位が変わりました。さらに東京オリンピックが開催された8月には、インドネシアが約22,000人に減り始める一方で日本が約18,000人に増加、タイも約2万人、ベトナムも1万人余りと軒並み憂慮すべき事態に陥りました。

ところが9月からはインドネシアの新規感染者数が急減、日本

も10月から後を追うように減る一方、タイでは緩慢な減少にとどまり、ベトナムでは高止まりの傾向が見えました。11月の平均を計算すると、日本が約150人、インドネシアが約400人、タイが6,800人弱、ベトナムが約9,900人で、1月とは大きく様変わりしています。「禍福はあざなえる縄のごとし」という諺がまさに当てはまるような推移です。

1910年代に世界中で猛威を振るったスペイン風邪も2年余りで沈静したそうです。インドネシアには「嵐は必ず過ぎ去る」(Badai pasti berlalu) という諺があります。(この綴りでGoogle検索してみてください。歌や動画のYouTubeが出てきます。)

コロナ禍もそろそろ今年で沈静化し、アジアの交流事業にもまた明るい展望が開けるものと確信します。希望をもって進みましょう。



ハノイ貿易大学が第48回国際交流基金賞を受賞

交流校として誇りに思う

2021年10月20日ホテルオークラで開催された授賞式に招待を受け、アジアの新しい風の事務局長として出席しました。過去の国際交流基金賞に、アジアの

林望元理事長、アニメ映画監督の宮崎駿氏、作家の村上春樹氏などが選ばれており、栄えある賞です。授賞式には、鈴木貴子外務副大臣をはじめ来賓、映画監督は枝裕和氏を含む4件の受賞者・団体の方々が多数参列され、選考委員長の宮内義彦オリックス株式会社シニアチェアマンから、受賞候補の個人及び団体101件の中から「長年にわたりベトナムにおける日本語教育を支え、優秀な人材育成、国際相互理解の促進に貢献した」としてベトナムの3大学が受賞された選考経緯が紹介されました。

授賞式に続き、会場特設スクリーンを通してオンラインで参加された貿易大学トゥーイ先生の、日本語教育への取り組みや人材育成に関する素晴らしい受賞スピーチが披露されました。

あらためて今回の受賞をアジア風として心より祝い申し上げると共に、ハノイ貿易大学日本語学部の益々のご発展をお祈りしたいと思います。

(事務局長 西澤 逸実)

ベトナムと日本のかけ橋を育てる

このたび、私どもハノイ貿易大学日本語学部は、ハノイ国家大学外国語大学日本語文化学部、ハノイ大学日本語学部と3学部合同でベトナム初の受賞者として「国際交流基金賞」を受賞することとなり、心より嬉しく存じております。

ご存じのように、広範な戦略的パートナーシップの下、日越両



国は過去最良の関係を築いています。良質な日越関係の下で両国間の経済交流、文化交流も一層活発化し、ベトナム進出日系企業や日本本土の日本企業に就職するベトナムの若者が増えています。彼らこそベトナムの代表として、ベトナムと日本とのかけ橋となり、両国の関係を維持・発展させていく上で重要な役割を果たしております。

本学の日本語人材の教育理念は、リベラルアーツ志向、実践型の教育を通じて誠実かつ創造的で責任感に溢れる人材を育成することによりベトナムと日本の学術・文化・経済交流の促進に貢献することです。

こうした理念を実現するべく、我々日本語学部では日本語能力だけでなく、ビジネスの日本語および日本型経営をはじめとした国際経営や国際貿易に関し、深い理解を持ち、グローバルの舞台で活躍できる優秀な日本語人材育成に尽力しております。日本語教育50年の歴史を持ち、ベトナムでのビジネス日本語人材の育成をリードする大学として国内外で広く知られています。

特に、ベトナムにおける日本語教育の機運が高まった中2017年に、他2大学と共にイニシアティブをとり、全国の日本語教育実施大学等と協議し、ベトナム初の全国組織である「ベトナム日本語・日本語教育学会」(AJEV)を設立しました。AJEV主催のワークショップと各種活動を通じて、ベトナム全国の日本語・日本語教育の研究者、教師に対し学術研究・情報交換の場を提供・促進することに貢献しております。

今回の栄誉ある受賞を励みとし、これからも一層の研鑽を重ね、ベトナムにおける日本語教育の発展、優秀な日本語人材の育成に専念することをもって日越友好関係の更なる深化に精進して参りたいと存じます。

(貿易大学日本語学部長 チャン・ティ・トゥ・トゥーイ)



初めてのパジャジャラン大学訪問ツアーから 2021 年の秋で 3 年が経過、残念ながら今回は訪問が出来ない為、学生コーディネーターのファアリさんとアウリアさんがサムスル先生や I メイト学生の皆さんと相談の結果「スピーチコンテスト」を実施することにしました。12 名の I メイト学生の中から参加者は 7 名、「昔の自分に言いたい事」「自分の好きな物」について、過去の実験や、現在の気持ち、将来への夢を日本語で一生懸命表現してくれまし

た。また、正会員の斎藤利治さんによるきめ細やかな質問にも対応、皆さん見事な出来栄でした。日本側会員の発表は安川一さんの尺八演奏、児玉久美子さんのお祭りの話でした。

その後の「おしゃべりの場」には日本人会員 17 名と I メイト以外の日本語学科の学生も大勢参加し日本語の会話を楽しみ、アツという間に交流の時間は過ぎてゆきました。

(理事 古海 正子)

素晴らしいスピーチの実力は I メイト交流のおかげ

2021 年 2 月からパジャジャラン大学の日本語講師として勤務し始めたサムスル マアリフと申します。初めての勤務にもかかわらず、アジアの新しい風との交流を担当させて頂き、光栄に思います。アジ風の皆様と初めてお会いしたのは新春交流会の時でした。

秋学期に入るとアジ風の皆様が当大学を訪問され、交流学生と直接会えるはずでしたが、コロナの影響でそれができなくなりました。非常に残念でしたが、その代わり、オンラインスピーチコンテストを開催することになりました。ここまでアジ風の皆様が学生たちに気をつかって下さるとは思いませんでした。本当に感謝しております。

スピーチコンテストが決定された際、I メイト学生達に募集をかけました。最初、参加するのを遠慮している学生もいて、コンテストとして盛り上がるための人数を達成できませんでした。しかしコーディネーターのファアリさんとアウリアさんが諦めな

かったおかげで、I メイト学生に参加するよう、説得できました。

コンテストに参加した学生は、日々の課題で忙しいにも関わらず、アジ風の皆さんに相談して、原稿を仕上げました。最後には私が目を通しましたが、とても感動しました。ここまで学生が自分の気持ちや考え方を日本語で主張できるのは、アジ風の皆様と交流したおかげだということが分かりました。

コンテストの当日は、素晴らしいスピーチの実力を見せてもらいました。ケビンさんが最優秀賞として選ばれましたが、学生の皆が自分からチャレンジし、コンテストに出たことが何よりも大事だと思います。改めて、このような貴重な機会を与えてくださったアジ風に感謝します。また、今後ともアジ風との交流のイベントを楽しみにしております。

(日本語講師 サムスル マアリフ)



最後のチャンスに最優秀賞

これは初めてのスピーチコンテストでした。私は多くの人の前で話すのがすごく恥ずかしいです。特に、外国語で話すことです。今年は 4 年生になりましたのに、大学で勉強してきた日本語をあまり使っていませんでした。卒業する前に、一回でも実際に日本語を使いたかったから、最初は、アジ風がスピーチコンテストを行うと聞いたら、スピーチをやったことがないから参加するつもりはありませんでしたが、「これはたぶん最後のチャンスだよ」と思って参加することにしました。そのとき、何を話せばいいか、分からなくて、混乱しました。ただ良いスピーチするために、偉い原稿を作らなければなりませんと考えていました。しかし、もう一度考えてみるとスピーチの対象は聞き手の心に触れると考えました。このスピーチコンテストに参加して、非常に勉強になりました。私は少しずつ人前で話す自信ができました。アジ風の皆さまがこのチャンスをくださって、本当に感謝しています。



(エミリオ ケビン I メイトは鈴木一美さん)

好きなもの伝えること

アジ風の皆さまの応援や賞賛のおかげさまで、はじめて、スピーチコンテストで優秀賞をとることができました。

私の場合、原稿を書くことに大変時間がかかってしまいましたが、得た経験を次の機会に活かして、時間を守って、より良い原稿を作れると思います。

私は声の出演が好きで、昔から日本の声優を真似て、日本の作者が作ったゲームを通して言語を習得してきました。ですが、一般的な趣味ではないため、他の人に説明するのがいつも大変でした。



ですが、この機会を通して、好きなものについて皆さんに伝えることができました。とはいえ、それがほとんどの人にとっては聞いたこともない話ばかりでしたので、延々とそればかり話しても、不明な点は多いでしょう。それでも、アジ風の皆様が興味を持ってくださったこと、そして、理解しようとしてくださったことがとても嬉しいです。感謝しています。

アジ風の皆様から、I メイトの伊藤さんから、そして大学の先生の方から、たくさんの勇気をもらいました。

これからも勇気を出して、私の考えをスピーチ化し、皆さんに伝えてみたいと思います。

(ジェシカ ダフィニア I メイトは伊藤春雄さん)

優秀賞に選ばれてとても嬉しい

日本語のスピーチコンテストはこれが初めて参加しました。最初は何を話せばいいか分からなくて、なかなかテーマを決められませんでした。それで、I メイトの西澤さんにそれを相談して、テーマを決めることができました。原稿を書く前に、参考としてユーチューブにあったいくつかのスピーチ動画を見ていました。はじめて原稿ができたときは西澤さんに送って、チェックしてもらって、いろいろな提案をもらいました。そして、大学の先生、サムスル先生にもチェックしてもらって、いくつかの間違ったところを治すことができました。

原稿が完了したあと、ほかの参加者、ケビンさんとサルワさんと、三人で練習しました。スピーチの練習だけではなく、質問されるかもしれないこととその答え方も練習しました。コンテストの日にはすごく緊張しました。その結果がよくて、とても嬉しかったです。これは皆さんのおかげです。本当にいい経験になりました。

(ムハンマド ファルハン サリム I メイトは西澤逸実さん)



11月21日、貿易大学とのオンライン交流会を行いました。テーマは学生からの希望で「就職活動」。正会員でキャリアコンサルタントの中本寧さんを講師に迎え、学生とOB（14名）、会員（18名）、貿易大学のアン先生の参加の下、活発な討議が展開しました。学生からの多彩な質問に講師からの適切な助言があり、参加した学生にとって有意義な時間であったようです。（理事 島村 美智）

キャリアを考えるヒントとして

ハノイ貿易大学交流会での就活セミナーについて報告申し上げます。最初に日本企業に対する印象を述べて頂きました。日本企業は「時間とルールに厳しい」「真面目で仕事に熱心」という印象で一致していました。その中で「日本企業は厳しいが自分を成長させてくれる、将来は日本企業で働きたい」という発言があり、日本人会員を喜ばせてくれました。質疑応答では「自分に合った会社を見つけるには?」「どうやって自分のやりたいことを見つけたら良いか?」と言った質問が出ました。小グループに分かれての交流会では男子学生から「将来は貿易大学の先生になりた

い」という発表がありました。同じグループにいたアン先生は思わず顔がほころびましたが、「大学の先生はお給料がとても安い。あなたは男の子だから家族を養えるように一生懸命勉強して先生の仕事以外もできるように頑張っ



（キャリアコンサルタント 中本 寧）

留学が身近に

私は4年生だが、将来の仕事にはまだ疑問がある。セミナーに参加したことで、今後の準備について理解を深めることができた。特に、将来私に最も適切な仕事を決定するためには使用される、WILL, NEED, CANのモデルが印象に持たれた。講演者は、どこで仕事を見つけるか、どのように仕事に応募するかなど、仕事に関連する側面について学ぶ方法について非常に注意深く説明した。ディスカッショングループに参加したときは、大学の講師になるという方向性を共有した。それから、ディスカッションのメンバーから多くの意見が寄せられた。ほかのメンバーが過去の仕事や就職の経験をたくさん教えてくれた。また、日本の名前の意味や、両国の文化の違いについて学ぶ機会もあった。交流のおかげで、将来留学する日本への愛情が深まるようになった。（グエン・ダン・ソン Iメイトは島村美智さん）



多様な話題の場

今回のテーマは「就職活動」、中本さんのお話は、日本の学生にとっても大変参考になる内容だと思いました。また、「就活の経験を通して」では、職場体験を通じた学生の率直な意見が発表されました。

そして、グループディスカッションでは、東南アジアの学生の日本企業への就職活動をサポートされた経験のある会員の方から、考慮点をお話いただきました。例えば、「まずは日本語力」「事前に就職条件等をよく理解することが大事」などです。学生からは「日本は、転職がしにくいのではないか」という懸念の声もありましたが、最近、日本でも「終身雇用」の概念は崩れつつあり、実際に転職する人も多いことをお伝えするなど、充実したディスカッションとなりました。



（正会員 三木 京子）

棒ノ折山 山歩き

アジ風山歩きを楽しむ会では、11月18日1年ぶりに山歩きを行いました。行く先は奥武蔵（埼玉県）と奥多摩（東京都）の境に位置する「棒ノ折山」（標高969m）。

参加者は初参加の2名を加えて8名でした。上りは、清流が足元を流れる沢歩きをはじめ、迫力あるゴルジュ帯（両側から岩壁迫り狭くなった溪谷）、鎖場や岩場、心臓破りの急登など、下りは杉の根がタコの



足のように露出した急傾斜の道と、大変変化に富んだ行程でした。

天気もまずまず、太陽も顔を出し木々の黄葉が鮮やかでした。頂上からの眺望も良好で、遠くは谷川岳から筑波山まで展望でき、赤城山、白根山、日光連山などの峰々がくっきりと眺められました。少々キツイ山でしたが、達成感の大きい大満足な山歩きでした。

（正会員 井上 巖）

会員紹介

石橋 順子さん

37歳の時ご主人の転勤で3人の子供も一緒にドイツに住むことになった。東西ドイツ統一後の或る日、国境の町カッセルから東ドイツ側に入って見て驚いた。町中想像を絶する疲弊ぶりだった。西ドイツでの日用品の買い出しに、国民車トラビが長蛇の列を作っていた。同じ民族でも全く違う体制の国が一つになることの大変さを肌身に感じた。ドイツの後に住んだフランスでも日本との違いを沢山見聞した。合計8年間の体験を石橋さんは『ドイツの心 フランスの心 駐在員の家族が考え学んだこと』という本にして出版されている。その後は、昭和20年代の戦後の時代から令和のコロナの時代に至るまでの、様々な出来事を『東風に京女、峠の茶屋で一休み』という本にして出されている。2冊とも是非読んでみたいものである。

45歳で帰国した石橋さんは「外に出て働きたい」という想いを捨てがたく、大学時代に取得していた教員免許を使って、豊田

市及び神奈川県公立高校の英語教師になり、今も続けておられる。米国の姉妹都市へ生徒を引率して行ったり、向こうの生徒を受け入れたり、交換留学生のお世話をしたり、アジアからの海外農業研究生を文化祭に招いたり、異文化交流会という教師のグループ活動に参加したり、八面六臂の大活躍である。

愛知県海外婦人派遣団でオーストラリアへ実情調査に行き、当時まで日本ではあまり問題視されていなかった「セクハラ」について知り、そのことをNHKラジオの「ひるのいこい」で話された。

アジ風では1昨年訪問したタマサート大学で日本の詩の朗読コンテスト審査委員長を務めた時に見た学生たちの真摯な姿が一番心に残っている。日本の学生とアジアの学生の交流や在日駐在員の奥様に日本語を教えるなどの新たな取り組みができないかと今後のアジ風への思いも語って下さった。



インタビュアー：園田 成和



今回は貿易大学から2020年に交流を開始された原章二郎さんとド・ティ・タン・トユイさん、吉岡京子さんとグエン・ティ・ファン・アインさんとの交流をご紹介します。どちらも6月開催のオンライン貿易大学スピーチコンテストを経験、これを機にLINEやZoomを併用する交流を始められました。時には会話練習など交流方法も広げられています。

(貿易大学コーディネーター 小林 玲子)

原章二郎さんとド・ティ・タン・トユイさんの交流

原さん → トユイさん 2021年5月16日

トユイさん、昨晚は夜おそくまで練習でお疲れ様でした。送っていただいたビデオを聴きました。たくさん練習をしたので、とても上手になっていますね。ビデオを送るまであと2日あるので、今日気づいた点をおつたえします。時間があれば、指摘した点を直してから事務局にビデオを送っていただけますか。不明点があれば、ご連絡ください。



- 1) 読み間違い / 洩らしの修正
- 2) 表現力を高める話し方をする
添付で<ここで間をおく>と書いたところでしっかり Pause (間合い) を取る
- 3) 正しい日本語を話す (大分よくなりました。もうひといきがんばりましょう)
① 長音 (ー) を十分な長さ (= 1 拍分) きちんと発声する
② 撥音 (「ん」) を 十分な長さ (1 拍分) きちんと発声する
③ 「～ました」「～でした」のアクセントの修正
④ 添付で緑色をつけた語彙の発音をできるだけ明瞭 (めいりょう) に

トユイさん → 原さん 5月27日

章二郎さん、こんばんは。遅くなって、申しわけありません。先ほど、事務局からメールが届きました。一次審査をパスしました。今、本当に幸せです。発音と内容を褒められて喜んでます。また、今日の中間テストのスピーチで9.5点 (9.5点/10) を取りました。先生に発音が良くて、内容が分かりやすかったと褒められました。



今日は本当にラッキーな日です。章二郎さんのおかげです。いつも一所懸命に教えてくださって、ありがとうございました。

会員の審査員からコメントをいただきました。まだはっきり話せなかったところがありました。メールによると、動画の取り直しが可能だそうです。提出する締め切りは6月3日です。会員の審査員からのコメントを送ります。章二郎さん、コメントを読んだら、意見を言っていただけませんか。ビデオを作り直したいのですか。お時間があるときご返事ください。

吉岡京子さんとグエン・ティ・ファン・アインさんの交流

アインさん → 吉岡さん 2020年12月2日

京子さん、こんにちは！お元気ですか。



京子さんの時間を効率的に使う方法は素晴らしい考えだと思います。きっと私も真似してみます。日本の文化について、もっと知れば面白いでしょうね。そして、奈良での生活の写真は楽しみにしています。ところで、私の趣味は写真を撮ることです。チャンスがあれば、ベトナムの生活を写真で送ろうと思います。

最近、大学生のボランティア団体に参加して、新しい友達に会って、彼らからいろいろなことを習われて、すごく嬉しいです。

山岳地帯で苦境の子供のため、私たちの仕事は支援を要請します。毎週、古着や古い書籍をもらって、忙しくても、ほかの人を応援できて本当に嬉しいです。このメールにつけて、私たちのチームビルディングでの写真です。これは大学生の時代で素敵で忘れない記念とおもいます。

京子さん、日本でボランティアはどんな行いますか。京子さんのころ、そのような団体に参加したことがありますか。

また、日本で冬も来ましたね。今日、ハノイの天気はちょっと寒いです。奈良の天気はどうでしょうか。この季節で奈良での特別な料理は何でしょうか。本当に知りたいです。

最後、文章を直してくれて、どうもありがとうございました。京子さんのお返事、お待ちしております。

吉岡さん → アインさん 12月8日

アナさん、こんばんは！



素晴らしいボランティア活動をしているのですね。頑張ってくださいね。その体験を通して、広い世の中の仕組みが分かってくるよ。

私は、7年前まで、東京に住んでいました。東京では、江戸(えど)東京博物館で、フランス語のボランティアガイドとして、見学者の方々に展示品(てんじびん)の説明をしていました。フランス語圏(けん)の方々に日本の歴史・文化に興味を持っていただくのは、うれしかったですよ。

今後の行事予定

*詳細はHPを参照

2月13日

新春交流会 (オンラインで開催)



・・・編集後記・・・

アジ風新聞73号の「今後の行事予定」に掲載しました「ファシリテーター講習会」は、公募をせずに少人数での研修会になりました。今後ともオンライン会議でのグループ討議が行われる機会が増えるでしょうから、討議を仕切るファシリテーターの拡充が求められると思いますので、多くの会員の方を対象に随時開催されると思います。

今号では、パジャジャラン大学のスピーチコンテストや、貿易大学との交流会などオンラインでの催しについて掲載しています。日本ではワクチン接種が功を奏し新規感染者も激減し、今後はオンラインと共に再び会員同士で顔を合わせた会合も開催できると思っていましたが、南アで発生したと伝えられるオミクロン型がかなりの国で発症しているようで、再び海外からの入国が止まりました。これで予定していた日本への留学がまた遅れることになりそうです。何とか4月入学に間に合うといいのですが。

(伊藤 莞爾)